



## 農学科の令和元年度 卒業論文発表会を開催しました

令和元年度農学科卒業論文発表会を、12月19日(木)に開催しました。昨年までは卒業論文の進行スケジュールを考慮して1月に開催していましたが、この発表会が1月中旬に開催される東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会の予選会を兼ねていることもあり、そちらの開催に合わせて3週間ほど早めて実施しました。

農学科では、2年生全員が一人1課題以上のプロジェクト活動に取り組んでいます。学生自らが農業を学ぶ中、また専攻実習に取り組む中で感じた疑問点や改善点を課題とし、様々な試験を行いながら得られたデータを科学的に検証し、卒業論文としてまとめます。

卒業論文発表会はその成果の発表の場で、専攻毎に選抜された2年生9名(昨年度に引き続き養豚・養鶏専攻からは2名発表)が10分間の発表を行うもので、自分の取り組んできたテーマを全学生の前で発表できる絶好の機会です。

当日は、いずれの発表者も専攻の代表であるという自覚と責任を持って、素晴らしい発表を行いました。

審査は、友松校長始め4名の審査員が「発表内容」「発表方法及び態度」「質疑に対する応答」の各審査項目に基づいて実施し、厳正なる審査の結果、最優秀賞1名と優秀賞2名を選出しました。

各賞の受賞者は以下のとおりです。

最優秀賞：樋口翔太(養豚・養鶏専攻)  
「豚深部注入カテーテルを用いた人工授精における精液量の削減」

優秀賞：荒木 亨(切花専攻)「スプレーギクの側芽の除去量と品質」

優秀賞：渡邊亜利紗(作物専攻)「水稻品種「あいちのかおり」における密苗栽培の有効性検討」



〔発表する樋口君〕

最優秀賞の樋口翔太君の発表は、養豚場で普及が進む新しい人工授精技術の改善についてまとめたものでした。経済性の試算も行い、卒業後は県内でトップクラスの養豚の法人に就職する彼ならではの情熱ある取組でした。

審査委員長である友松校長の講評では、「限られた期間や条件の中での取組みに苦勞したと思うが、どれもレベルの高い内容のある素晴らしい発表であった。」と本人や専攻の関係者に労いの言葉をかけました。



〔受賞者と校長(前列)、発表者(後列)〕

なお、最優秀賞の樋口翔太さんは「東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会」に本校代表として参加しました。  
(農学科 中谷 洋)

## 東海・近畿ブロック農業大学校学生 研究及び意見発表会で最優秀の成績納める

東海・近畿ブロックの農業大学校9校による学生研究及び意見発表会が、令和2年1月16日(木)から17日(金)の2日間にわたり、滋賀県立男女共同参画センターで開催されました。

16日に開催された発表会には、本校の代表として、本校の卒論発表会及び意見発表会でそれぞれ最優秀賞を受賞した樋口翔太君(養豚・養鶏専攻2年)と森下響君(施設野菜専攻1年)の2名が参加しました。



[樋口君(養豚・養鶏専攻)]



[森下君(施設野菜専攻)]

樋口君は、研究発表の部で「豚深部注入カテーテルを用いた人工受精における精液量の低減」、森下君は意見発表の部で「私の目指す農業経営～我が家のトマトを世界へ～」と題しそれぞれ発表しました。

両名とも、本校での発表会の時よりも発表方法を工夫するとともに、練習も重ね、研究の成果や自らの考え・思いを、審査員や聴衆の学生を前に、表現力豊かに訴えていました。

9名の審査員による厳正なる審査の結果、両名とも第1位の最優秀賞とすばらしい成績を収め、愛知県が最優秀賞をダブル受賞する快挙を成し遂げました。

この結果、両名とも2月12日(水)～14日(金)に東京都で開催される「全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会」に、東海・近畿ブロックの代表として参加することとなりました。東海・近畿ブロック大会に続いての全国大会での健闘が期待されます。

また、発表会後には、宿泊するホテルの地下1階にある中華料理店で引き続き交流

会を開催し、参加した学生同士が府県、部門を超えて打ち解けあう様子があちこちで見られました。



[受賞した各府県の発表者たち(左から1,4番目が本校発表者)]

発表会翌日の17日には、表彰式が開催され、本校の代表2名がいずれも晴れやかな表情で表彰状を授与されていました。

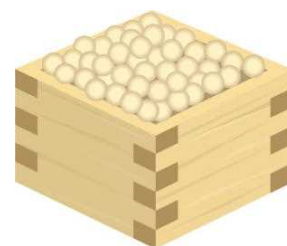
その後、参加者はバスで移動し、近江八幡市浅小井町にある「浅小井農園」を視察しました。

この農園では、7名の従業員と面積80aの超低コスト耐候性ハウスで中玉トマトを周年栽培しています。収穫物は京都、大阪、関東や名古屋のデパートやスーパー、地元の直売所に直接出荷しています。JGAP認証を取得しており、農場内の管理マニュアル等のルール作りや従業員教育にJGAPを活用しています。

参加した各校の学生は、次世代の農業生産施設を目の前にし、前日の発表の疲れもすっかり忘れ、トマトの生理に合わせたきめ細やかな管理方法を勉強していました。

また、JGAP認証を取得するメリットや出荷先や販路の開拓方法等について、熱心に質問していました。

(農学科 榎本 剛士)



## 農大産大豆を使って豆腐と味噌作り

作物専攻では、大豆の栽培から加工までの技術の習得を目的として、栽培と併せて自分たちが栽培した大豆を使って味噌作りと豆腐作りの加工演習を毎年行っています。

本年度は、昨年 11 月 28 日(木)に、作物専攻の 2 年生 7 名が、大豆の加工技術を学ぶため、外部講師から指導を受けながら味噌作りと豆腐作りを実習しました。



[講師の指導で豆腐づくり]

豆腐作りでは煮た大豆から絞った豆乳にニガリを入れ、型に入れて重しをかけて成形しました。その後、水の中で豆腐を取り出しました。また、加工の過程で出たオカラについてもサラダとハンバーグに調理しました。初めて大豆から豆腐を作った学生からは「市販の豆腐よりも味が濃くておいしい。」という声が聞かれました。

味噌作りでは、大豆を圧力鍋で煮た後、タライの中に入れてつぶし、それに米麴と豆麴、天塩を混ぜたものをボール状にして殺菌した容器に隙間ができないように投げ込んでいきました。そして、冷暗所に 1 年間保存します。例年仕込んだ味噌は次年度の



[農大産手作り味噌を仕込み中]

の農大祭で五平餅用の味噌作りに使用しています。1 年後どのような味噌になっているか楽しみです。

(農学科 古川 恵)

## 汎用コンバインを利用した大豆の収穫実習

作物専攻では、大豆収穫作業の実習として、毎年、有限会社小久井農場から汎用コンバインをお借りして実演を行っています。

本年度は、昨年 12 月 13 日(金)に、作物専攻 15 名が大豆の収穫作業を学ぶため、有限会社小久井農場の従業員から指導を受けながら汎用コンバインを用いた大豆の収穫に取り組みました。

収穫前に汎用コンバインの仕組みや収穫方法についての講習を行い、その後実演を行いました。学生も、操作方法や収穫のコツを教えてもらいながら、実際に収穫作業を体験しました。大豆の収穫は水稻の収穫と違い、刈り取りの高さが高くなると収穫ロスが多くなるため、刈り取りの高さ調節が難しくなります。そのため、水稻の収穫作業を体験している学生たちも、操作が難しく収穫に苦労していました。体験した学生からは、「水稻の収穫よりも難しい。」「刈り取りの高さ調節に気を遣う。」という声が聞かれました。

今年度の大豆は 7 月の長雨による播種の遅れで実の充実が悪く、収量は例年より低くなってしまいました。収穫した大豆は篩によって選別を行い、次年度の加工演習での味噌造りに使用するほか、地元で味噌造りと販売を行っている団体に販売します。

(農学科 古川 恵)



[汎用コンバインによる大豆収穫]



## 緑の学園研修 高校生が農業大学校の実習を体験

農業体験実習を通して農業への関心を深めてもらうことを目的に、高校生を対象とした「緑の学園研修（一日農業体験学習）」を年間に5回開催しています。

令和元年12月24日（火）に、本年度最後の研修を実施し、12名が参加しました。

午前に農大の概要説明と学生寮や校内の施設、ほ場の見学を行いました。

午後は参加者の希望する体験コース（花き、野菜、畜産）に分かれ、専攻の学習内容の説明を受けた後、冬休みの当番で出校している在校生と共に花苗の寄せ植えや野菜の収穫作業等を体験しました。寒い中の実習でしたが、専攻の指導職員や農大の学生から指導を受けながら、真剣に取り組んでいました。

参加した高校生からは、「優しく教えてくれて実習が楽しかった。」「農大に入学したい。」との感想が聞かれました。



[野菜専攻で実習体験中の高校生たち]

本年度の緑の学園研修は、夏季に4回、冬季に1回を開催しましたが、農業高校をはじめ各校の御協力により、延べ131名（昨年122名）の参加者を得て無事終了することができました。参加者の内訳は、72%が県内農業関係高校生で、うち3年生が75%（昨年60%）でした。また、75%が非農家、男女の比率は概ね2対1でした。

この研修は高校生の皆さんに、実際に見

て、体験して農大を実感してもらう大切な機会と考えています。本年度の評価や反省を踏まえて、令和2年度も引き続き開催する予定です。

（就農支援科 野村 芳江）

## 農業者育成支援研修 研修生9名が約8か月間の研修を修了

農業を担う多様な人材を育成するため、新たに農業を始めようとする人を対象として実施した農業者育成支援研修の閉講式を令和2年1月20日（月）に実施し、研修生9名が修了しました。

研修生は、5月から約8か月間、共同及び個人でのほ場実習、講義、農家実習に取り組み、露地野菜を中心とした農業の基礎的な技術、知識を習得しました。

閉講式に先立ち、研修生各自が今後の抱負について述べる時間を設けました。この研修で身に付けた技術・知識を活用して農福連携やSDG's\*に取り組む者、就農しながら地域の農家の指導を得て技術向上に取り組む者など、各自からたいへん前向きで熱意溢れる決意が語られました。そして、本校職員に対する謝辞と共に「一緒に研修に取り組んだ仲間たちのネットワークを今後も大切にしていきたい。」との発言がありました。今回修了した全員が、目標達成することを、職員一同期待しています。

（担い手支援科 福井 敏幸）



[研修修了の報告をする受講生]

\*国連の持続可能な開発目標。世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるための17の目標と169のターゲット（達成基準）からなる。

## 実習販売 1年生へバトンタッチ

秋以降、農学科2年生は卒業論文の作成に追われるようになってきます。それに伴って、毎週水曜日の午後で開催している実習販売に立つ学生の顔ぶれも、ほぼ1年生に入れ替わりました。



[接客中の学生たち 上から鉢物・緑花木専攻、養豚・養鶏専攻、切り花専攻]

はじめのうちは、もじもじして小さな声で呼び込みや接客をしていた1年生たちも、この頃はかなり逞しくなってきました。とはいつつも、販売開始3分前になって、ドタバタと商品を準備をする姿も見られたりします。

あと数か月もすると、彼らは新1年生を指導する優しい(?)先輩になります。きっとその頃には、ガイと後輩たちを引っ張っていることでしょう。そんな姿を想像すると、思わず「がんばれよ。」と声をかけたくくなります。

(副校長 堤 公生)



[和耕寮(S棟)、数週間後に2年生は退寮します]

## 農大からのお知らせ

### ◇令和元年度卒業式◇

農学科の令和元年度卒業式を次のとおり開催します。

- ・期 日：令和2年3月5日(木)  
午前10時30分から
- ・場 所：中央教育棟3階 大講義室
- ・問合せ先：学務科(伊藤) 0564-51-1602

### ◇生産物実習販売ごよみ◇

令和2年2月の生産物実習販売についてお知らせします。

- ・販売日：2月5日、12日、19日、26日  
(祝日を除く毎週水曜日です。)
- ・時 間：午後3時から
- ・場 所：農業大学校体育館
- ※なお、袋入り堆肥の販売は、第2機械庫前で牛ふん堆肥と鶏糞堆肥に限ります。
- ・問合せ先：農学科(山本) 0564-51-1673

### 校内でCSF(豚コレラ)防疫対策実施中

農大では、CSF防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

- 畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
- 農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
- 主要な教育施設の各出入口付近全てに踏込消毒槽を設置(靴の消毒)
- 関係車両等の消毒の徹底  
(車両消毒槽、動力噴霧器)
- その他、諸防疫対策を実施